

光と緑の風通信

発行/2020年3月4日 編集/福島県立医科大学看護学部 〒960-1295 福島市光が丘1番地 Tel.024-547-1111 (代)

はなむけの言葉

看護学部長 太田 操

昨年11月、本学部卒業生3人が自分たちで訪問看護ステーションを立ち上げました。しかも将来の事業拡大も見据え株式会社として!町の支援も受けることが出来て順調なスタートを切ったようです。

先日、その会社を訪問して来ました。自分たちが大事にしていることを理念として掲げ、壁に貼ってありました。それを利用者さんやそのご家族にも必ず見て頂き説明しているとのこと。また、今後、様々なバックグラウンドの人たちがスタッフとして集まった時に、理念を共有することによって一致団結して進む力になるとも考えているようでした。

もう一つのポイントは、学生時代のクラブ活動(部活)からの繋がりです。3人のうち2人は同じ部活でした。医学部部員の開業しているご両親からもアドバイスを頂いたそうです。学生にとって部活の繋がりは卒業後も続いており、その影響は大きいと感じました。「部活のエネルギーを教室の中にも」との呟きもありますが、部活の盛んな大学はレベルが高いという説(?)もあり、このような学生文化は今後も大切にしていきたいと思います。

先輩たちは凄いですね!!皆さんも同じ環境で、同じスピリッツを育んでいます。学生の成長や卒業生の活躍を通して、私自身が大学に誇りを持つことができ、とても感謝しています。



(おおた みさお)

懐かしさと初心

看護学研究科長 坂本 祐子

写真は、「認知症看護論」の1コマ、現会津医療センター精神医学講座教授川勝忍先生の講義風景です。なぜこの1枚が“懐かしさと初心”になるかを修了生へのメッセージとして書きたいと思います。

私が看護の基礎教育を受けていた時代は、現在専門としている老年看護学は分野・科目としてはなく、成人看護の教科書の片隅に数行記述がある程度でした。初めて座学で老年看護学を学んだのは修士課程に進学してからになり、その講師陣の一人が川勝先生でした。現在、縁あって学部と大学院の「認知症の診断と治療」を担当していただいています。毎回updateされる知見に臨床と研究の両輪の大切さと、そこに常に病む人の存在が感じられる講義に、いつも「このような講義が出来たら良いな」と思いながら拝聴しています。

年2回の川勝先生の講義は、「もう一度看護学を、それも好きな分野の看護を学びたい」、「学んだことのない老年看護学を学びたい」というワクワクした思いから大学院に進学した頃の自分を思い出させてくれます。いつしか人は初心を忘れ、慣れや惰性が忍び込んできます。皆さんが大学院で学びたいと思ったきっかけは何だったのでしょうか?それが在学期間ですべて解決されたとは思いません。初心を忘れず、探求心と向上心をいつまでも持ちつづけられる修了生でいてください。

(さかもと ゆうこ)





4年間を振り返って 笑顔で看護すること

看護学部4年 野島 しおり

大学に入学しあつたという間に4年が経ち、卒業を迎えようとしています。4年間は長いようで短く、私の中で一番濃い学生生活でした。私は初めての病院実習の基礎看護学実習Iで何をしたいかがわからず、ただ笑顔で患者さんと接していました。最終日に患者さんから「あなたの笑顔があれば自然と元気が出る、その笑顔忘れちゃダメだよ」という言葉を頂きました。その言葉が今でも心に強く残っています。それから3年生、



大学院生活を振り返って

大学院看護学研究科2年 紺野 愛

2年半の大学院生活を送ってきましたが、9月に無事修了を迎えることができました。忙しさや余裕のなさを言い訳にしてなかなかケアの本質や疑問について追及することができずにいましたが、改めて看護の基本に立ち返りケアの意味を考えさせられました。講義や研究を通して、母子と家族の声に耳を傾けながら、ケアの中で生じる疑問に研究的思考を持ちながら向き合うことの大切さを実感しました。そして、母子とその家族のケアに携わることが私自身にとっても大きな喜びであり、改めて感じさせられる時間にもなりました。私がこうして修了を迎えることができたのは、

贈る言葉



卒業おめでとうございます

看護学部3年 小松 高明

卒業生の皆さん、この度はご卒業おめでとうございます。学年が近いこともあり、皆さんとは多くの時間を共に過ごしてきました。入学してまだ間もない頃、積極的に声をかけてくださって、何事も親切に教えてくれました。勉強はもちろんのこと部活や私生活での相談など、様々な所で助けられました。そんな心強い先輩たちがいたから今の自分があると思います。私たちが周りから頼られる先輩たちのような存在を目指し努力します。4月からはそれぞれの道を歩むことになる



大学院を修了される皆様へ

大学院看護学研究科1年 上杉 史恵

この度、大学院を修了された先輩の皆様、修士課程修了おめでとうございます。私は、成人看護学領域が開講して初めての院生として大学院へ入学しました。大学院での生活を誰に相談したらいいのか不安でいっぱいだったのを覚えています。しかし先輩方は、領域関係なく、気さくに声をかけてくださり、課題の事や研究についても優しく、丁寧に教えて下さったことを今でも忘れません。あの、優しく陽の光が入るラウンジで、共にランチをしながら過ごした時間

在校生から



基礎看護学実習I での学び

看護学部1年 相馬 舞花

今回の実習は、看護1年にとつて初めて看護の対象となる方と関わらせていただく実習でした。話し方や接し方、将来看護職者として勤める私達が対象者を理解するために大切にすべき事は何か、初めて会った方の個人的な部分にどの程度踏み込んで良いのかなど、実習先に伺ってみて改めて対象の方を理解する難しさを感じました。何うのはたった4回、一週間に1度の実習でしたが、その中で



地域を理解する 実習を通して 学んだこと

看護学部2年 柴田 裕唯

私が実習させて頂いた保健福祉事務所では、自殺の対策推進協議会や、地元企業と連携して職場における健康づくりを支援する事業などに参加させて頂きました。



患者のQOL向上を 目指したケア

看護学部4年 鈴木 嵐

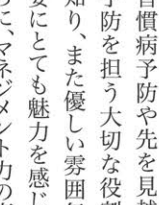
私は、脳血管疾患で麻痺がある高齢者を受け持たせて頂きました。受け持ちは全介助でしたが、自分でご飯を食べたいという希望を持っていました。看護ケアとして利き手のリハビリテーションや、スプーンの持ち手を改良し、患者と確認しながら自助具を作成しました。また、閉眼傾向であったため、毎朝目元を温めながらマッサージを行い、血行循環促進を図りました。その結果、自然開眼が多く見られるようになり、自ら茶碗を持ち、全量摂取を行うこ



基礎看護学実習I での学び

看護学部2年 齋藤 美咲

本実習では一人の患者さんを受け持たせていただき、沢山の事を感じ考えました。その一つとして、看護師の言葉や態度は直接患者さんの気持ちに影響を与えるのだということ。患者さんと信頼関係を築く為には言葉遣いや身だしなみが大切であると改めて学びました。次に、患者さんが回復していく中で、食に対する思いが変化している事に気付きました。実習1日目では「食べたくない」と呟く様



地域における 看護学実習で学んだこと

看護学部4年 大嶺 佳菜

私は県中地域の町で実習させて頂きました。実習では介護予防、母子保健、健康相談などの事業に参加させて頂いた。実習を通じて、地域全体を対象として関わり、住民の健康の維持増進、生活の質の向上を支えるためにも住民との関係性を大切に、切れ目のない支援が重要だと学び、この学びを今後看護職として働く際に活かしていきたいと思えます。

◎基礎看護学実習I(新カリキュラム)

◎地域を理解する実習

◎高齢者への看護学実習

◎基礎看護学実習I(旧カリキュラム)

◎地域における看護学実習

◎母性看護学実習



母性看護学実習を 通しての学び

看護学部3年 黒須 菜月

妊産婦に関わる助産師・看護師には、良好な経過を辿るための援助を行う役割はもちろん、母親に産後、またこれからの生活のイメージをもたせ、二人の女性が不安なく妊娠・出産・育児の経過にスムーズに適應できるよう、対象に合わせた支援をしていく役割があるのだと学びました。

抱えている不安、声にならないニーズは何か。本人にとっての安心安全安楽な生活とは何か。些細なサインや変化を見逃さず、こちらから関心をもって関われることが、母体と児の健康状態の

◎慢性疾患をもつ人への看護学実習



慢性疾患をもつ人への 看護学実習を通しての学び

看護学部3年 日下 亜美

慢性疾患をもつ人への看護学実習を通して、看護とは現在患者さんであられる状態に寄り添いながらケアを行っていくことはもちろんのこと、これから治療が進むにつれて新たにあらわれる治療の副作用も考えた上で先を見通した看護が大切であると学びました。慢性期にある人は治療が長期間に及ぶだけではなく、治療に伴

◎精神の健康障害をもつ人への看護学実習



精神に健康障害を もつ人への看護学 実習を通しての学び

看護学部3年 佐藤 若奈

私はこの領域での実習で、特にコミュニケーションの重要性について学ぶことができました。対象の方が抱えている思いを知るためにはまず信頼関係の構築が必要不可欠であり、そのためにコミュニケーションが重要な手段となることを学びました。

また、ただ会話するのではなく、散歩や作業など同じ時間を対象のペースで共有するというのも一つのコミュニケーションであるという点も実感することができました。会話のない静かな時間も共に過ごすことを重ねていくうちに、対象が自身の思いを打ち明けてくださるようになり、対象のペースに合わせて関わることで、信頼関係を構築することができたのではないかと思います。

会話以外のコミュニケーションの重要性を実体験から学ぶことができました実習となりました。

(さとう わかな)

◎急性期にある人の看護学実習



急性期にある人の 看護学実習を通しての学び

看護学部3年 金子 舞祐

急性期実習では、周手術期の患者さんを受け持ち、術前から術後、退院を見据えての看護援助について学ぶことができました。術前から術後まで予測される看護問題を予防するために看護援助を実施していきました。一般的な周手術期の看護問題だけでなく、個別性を意識して考える必要があり、毎日大きく変化していく患者さんに追いついていくのに必死でした。しかし、一つ一つ丁寧に観察・アセスメントしていくことで、患者の全体像を捉えることができました。実習を通して、私は看護師として退院後の生活を見据えてセルフケアを向上させるための援助が必要であると学びました。そのためには、患者のできることとできないことを見極め、評価する力や患者の身体的・精神的・社会的側面から理解する力を身につける必要があると感じました。

(かねこ まゆ)

また、ただ会話するのではなく、散歩や作業など同じ時間を対象のペースで共有するというのも一つのコミュニケーションであるという点も実感することができました。会話のない静かな時間も共に過ごすことを重ねていくうちに、対象が自身の思いを打ち明けてくださるようになり、対象のペースに合わせて関わることで、信頼関係を構築することができたのではないかと思います。

会話以外のコミュニケーションの重要性を実体験から学ぶことができました実習となりました。

(さとう わかな)



健康障害をもつ子どもの 看護学実習を通しての学び

看護学部3年 佐藤 泰天

私は、NICUで実習を行いました。NICUは病棟とは違った環境であり、特殊な環境であると言えます。家族は、待ちに待って生まれてきた子どもがNICUに入ることで一緒に過ごす時間が制限され、不安が非常に大きくなります。面会時間も制限され、会いたいときに会うことができないというのは家族にとって耐え難いことであると感じました。

このような家族の不安に対して、私に何ができるかを考え、この実習では

卒業生

近況報告



入職して

看護師 岩城 由佳

本学附属病院に入職してもうすぐ1年が経とうとしています。私は実習でお世話になった慢性期の病棟で働いています。毎日忙しいですが、優しい先輩方に教えていただきながら辛いときは頼りになる同期と励まし合いながら切磋琢磨しています。

入職して感じたのは、実習では1人の患者さんとゆつくり関わりますが、働くとき多くの患者さんを受け持たなければならず、患者さんと深く向き合うことができないもどかしさがあるということです。1人の患者さんへのケアや話す時間も限られてしまい、十分に関わることができない時もあります。患者さん1人と深く関わることができると、私も皆さんと共にがんばっていきたくてと思っています。

(いわき ゆか)



近況報告

保健師 加藤 愛美

大学を卒業して、はや1年が経とうとしています。私は、卒業してから檜枝岐村役場で保健師として働いています。

入職後は、母子や精神保健など保健業務全般を担当させていただいています。人口5000人あまりの小さな村なので、一人ひとりに深く関わった活動をする事が出来ます。業務においては、日々反省することばかりですが、「生活に寄り添った保健活動」が出来るよう、先輩方や住民の方の助けをかりて、仕事をさせていただいています。

大学では、友人や先生、患者さんとかくさんの「人」と出会います。保健師として働いてみて、何か困難なことがあった時、支えてくれるのもまた「人」なのだと思えています。皆さんも「人」との出会いを大切に、楽しく大学生活を送っていただけだと思います。

(かとう まなみ)



近況報告

助産師 岡部 瑞穂

大学を卒業し、3年が経とうとしています。卒業後は寿泉堂総合病院で助産師として働いています。

出産は母親だけでなく、家族にとっても大きな変化が迫られる出来事です。助産師としてお産の瞬間だけでなく、その後の育児もサポートできるように継続的な支援を意識し業務にあたっています。また妊娠・分娩だけでなく、婦人科疾患を抱えた患者さんを受け持つこともあり、女性のライフサイクル全体を支えられるよう日々努めています。現場に出てみて、改めて個別性の大切さや患者さん自身の持つ力を引き出す重要性を実感しています。

学生時代に学び、経験したことが卒業後様々な場面で活かされてくると思えます。みなさんも今の時を大切に頑張ってください。

(おかべ みずほ)

第70回 解剖慰霊祭が執り行われました

第70回解剖慰霊祭が、去る10月30日に本学講堂において執り行われました。今年度の慰霊祭には、ご遺族や志らぎく会の会員様など828名にのぼる方々に御参列をいただき、医学教育、学術研究の進展のためにご献体いただいた286名の御霊のご冥福をお祈りさせていただきました。286体の内訳は、学部生もかかわる系統解剖83体、さらに病理解剖36体、法医解剖167体でした。本学部からは1学年の学部生全員と教職員が参列して黙祷や献花を捧げ、また、本学医師代表として感染制御医学講座准教授の仲村亮氏が感謝の言葉を述べられて厳粛な雰囲気の中に無事終了いたしました。

(文責:看護学学生部長 本多 たかし)



退任のごあいさつ



退任挨拶

母性看護学・助産学部門教授 太田 操

私は、看護学部が開設した翌年の1999年に着任しました。それから21年間。振り返ると、とても楽しかったです。それまで東京では私立大学のみでしたので、公立大学での経験は新鮮でした。

着任する前に「福島県の方々には、あまり口を開けない」、「学生の掴みを取るのに5分以上かかる」等々の情報提供があり不安でしたが、そのように感じることは全くありませんでした。県や地域の看護職の皆様方との繋がりも、とても有難く、かつ勉強になりました。一つ一つが学びでした。

そして、何より、福島県のお米、桃、林檎、梨、葡萄、ラ・フランス、サクランボ、海苔、きゅうり：：等々、美味しいものばかり！
全てが温かく、全てに感謝!!有難うございました!!!



福島県立医科大学 看護学部を辞するにあたって

生命科学部門教授 本多 たかし

以下は、私が平成17年に本学に着任するにあたって学報に寄稿した小文の抜粋である。

『医学部が唯一無二の医師養成機関であるのに対して、看護師養成には多様な教育機関が存在します。専門職(看護師)養成だけでは看護学部は医学部ほど明瞭な存在理由を提示し得ないのです。爾来、「看護教育における大学とは何か」という本質的問題を問い続けてきたが、未だその解答を見出せていない。

そもそも「大学はかく在るべき」という命題に対し、私自身が明晰な解答を得ぬままに任期を終えることになるのだが、後に続く諸氏の勉勵で本学が真の大学を志向して歩み続けることを期待して止まない。

CALENDAR 看護学部 カレンダー

3月24日(火)

学位記授与式

4月6日(月)

在学生オリエンテーション

4月8日(水)

入学式

4月8日(水)～10日(金)

新入生オリエンテーション

6月18日(木)

開学記念日

7月4日(土)

オープンキャンパス

10月17日(土)

光が丘祭



第8回 福島医大
光翔祭
2019.10.19(土)・20(日)

光翔祭を終えて

光翔祭実行委員 中野 典子

令和元年10月19日と20日の2日間にかけて、第8回光翔祭が行われました。今回は元号が令和に変わってから初の学祭ということで、これまで誰も成し遂げられなかったことに挑戦していこうという思いを込めて「前人未踏」というテーマが掲げられました。このテーマをもとに実行委員、各部活動、サークル、部門では春頃から準備に取り組んで来ました。また、今年度は2年に1度の一般公開ということもあり、学生だけでなく一般の方も多く来場し、賑わいを見せていました。

看護学部では主に2年生が中心となって来場者に血圧測定や手浴を行う看護体験を実施し、多くの地域の方に喜んでいただくことが出来ました。

この度の光翔祭を大成功で収めることが出来たのは、日頃からの地域の方々の支えがあったからです。この感謝を忘れず様々な形で恩返しが出来るように、これからも精一杯学びを深めていきたいと思えました。

(なかの のりこ)

編集後記

ご卒業されるみなさん、本当にご卒業おめでとうございます！卒業生の多くの方は、自分が福島に赴任して初めて講義で携わった方々です。ということもあり、みなさんのご卒業は感慨深いです。これから社会に飛び出されますが、各所で必要とされる人材になっていただくことを切に希望致します。

最後になりましたが今年度ご退職の先生方におかれましては今まで大変お疲れ様でした。先生方の今後の益々のご活躍を祈念してやみません。

太田 昌一郎

◆編集委員

太田昌一郎
本多たかし
佐藤 博子
田中 啓子
吾妻 陽子
森 美由紀
秦 暁子
高橋 恵子
亀岡 康子
齋藤 史子